

令和4年第1回
高鍋町議会定例会

施政方針

高鍋町長 黒木敏之

2022年、「アフターコロナ」「ニューノーマル」「ゲームチェンジ」、時代は大きく変わり始めました。歴史を振り返れば、14世紀のパンデミック、最大2億人が亡くなったともいわれる黒死病・ペストの大流行は、歴史を塗り替え、人類を、ルネッサンス、創造的時代へと導き、社会の大変革をもたらしています。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックが始まって3年目を迎えた今、過去の歴史と同じく、世界は一変し、私たちは、「アフターコロナ」、コロナ後の「ニューノーマル」、新常識の時代を迎え、「ゲームチェンジ」、これまでとはまったく異なる発想や価値観の、経済、産業、企業、社会へと加速しながら急激に変化を続けています。

人口減少、少子高齢化、気候変動、脱炭素、人工知能（AI）、デジタル化（DX）など、社会、環境の変化、テクノロジーの進化、そして、人類を襲ったパンデミック、新たな時代への対応が迫られると共に、さらなる「まちづくり」へのチャレンジが求められています。

世界経済は、ロシアのウクライナ侵攻、米欧ロの対立、ロシアへの経済制裁、米中の対立と台湾の問題、国際的な覇権争いが続く中、コロナ禍も3年目を迎え、今後の景気回復が期待される一方、オミクロン株のまん延、半導体や食料やエネルギーの供給不足、物価上昇、世界的インフレ、金融緩和縮小、利上げ政策、債務の急増、所得格差、中国経済の減速、世界同時不況など様々なリスク要因が山積し、一触即発にある戦争への危機感が漂う世界経済の行方は未だ予断を許さない状況にあります。

日本経済は、経済活動の正常化、雇用・所得環境の改善、コロナ危機下に積み上げられた約40兆円の過剰貯蓄が消費に回る予測など、コロナ禍後の経済回復が期待されていますが、現状は、デジタル化の遅れ、所得格差、未整備な社会保障制度など、日本の社会や経済には大きな課題が残されて

おり、日本経済の成長には、加速する世界の進化に対応すると共に、積極的な改革を押し進めていく必要があります。

岸田首相は、経済成長を促進させるため「成長と分配の好循環」という目標を掲げ「新しい資本主義」という社会経済の改革を提言しました。その実現には3つの課題が指摘されています。

第1の課題は、産業構造の改革です。世界の産業・事業構造転換の動きは、一段と進化を遂げ加速しています。日本は、早急に、硬直的な労働市場の改革、企業の新陳代謝、将来への先行投資、ベンチャー起業家の育成、異分野の「知の統合」などを押し進め、産業、事業構造の転換を急がねばなりません。

第2の課題は、「分配」の強化です。過去30年間の世界の賃金水準の変化は、米国は2.5倍、ドイツは2倍に増加する中、日本だけが横ばいのままです。日本は、バブル崩壊後の、低成長、デフレ経済から抜け出せなかった「失われた30年」の中で、リストラや非正規雇用の拡大に終始し、人材への投資を停滞させてしまいました。国を豊かにするのは「^{イノベーション}変革」を起こす創造的人材です。人材育成への投資を強化し、創造的な人材や価値ある仕事に対しては、その成果に見合う賃金を支払い、相応な「分配」をすることが重要です。

第3の課題は、前向きに消費・投資できる環境づくりです。日本の家計と企業の現預金は2021年6月時点で1,400兆円に上ります。その背景には、日本経済の成長の不確実性や将来に対する不安があり、その備えとして、貯蓄を増やす結果になっています。これらの現預金は、金融機関も運用ができず、経済成長に活用されることもなく、拡大する政府債務の原因ともなっています。所得格差是正、社会保障制度改革などの推進により、将来の不安を抑制し、前向きな支出を促す社会環境を整えることが「成長と分配の

好循環」を促す重要な要素となります。

2022年、干支に因めば、今年は寅年です。寅、Tigerの語源は、Tigris (ティグリス) であり、「矢のように速い流れ」を意味します。世界の変化が加速する中で、日本は成長と分配の好循環を実現し、「レジリエント (強く柔軟性のある) で持続可能な社会」を目指して、寅のように「速く」「力強く」躍進していく必要があります。

急激に「ゲームチェンジ」していく時代、技術革新や新たな価値観によって導かれる先に、私たちは、どの様な未来を描くことができるのでしょうか。2030年の「メタバース」「循環経済」「金融」「教育」「宇宙」という「ゲームチェンジ」を象徴する分野は、どのような未来予測がされているのでしょうか。

メタバース

「メタバース」とは、仮想現実 (VR) ゴーグルを使い、アバター (分身) が自由に行動できる仮想空間のことです。私たちは、「メタバース」仮想空間の中で、働き、買い物を楽しみ、イベントに参加することができるようになり、仮想現実 (VR) や拡張現実 (AR) の技術で誕生した世界は、日常生活の一部となり、人と人とのコミュニケーションを大きく変えることとなります。

循環経済

資源を使わず、廃棄物を出さない「循環経済」への転換が急がれています。1970年代に「100年以内に資源が枯渇し、地球上の成長は限界に達する」と指摘されて以来、今、この懸念は現実味を帯びてきています。この間

題を解決するには、新たな資源を使わずモノを作り出す技術、国、企業、個人の意識や行動の変化が不可欠です。古い服の繊維から新しい服、空気から水、水から水素、循環再生する新しい技術は、急ピッチで進み、「資源を使わず、捨てない経済」の実現は目の前に来ています。

金融

お金は、紙幣や貨幣というカタチのあるものから、「見えないモノ」へと姿を変えられています。電子マネーや暗号資産(仮想通貨)が普及し、中央銀行が発行するデジタル通貨が登場し、ブロックチェーン(分散型台帳)という新しい技術も加わり、お金はデジタルな存在として、情報を持ち、国の政策や企業の戦略、人々の経済活動まで、大きく変えることとなります。

教育

「仕事」や「学び」が大きく変わります。今後10年で、世界中で、4億人~8億人の雇用がデジタル化・自動化によって失われ、そのうち4億人近くが新たなスキルを身につけ、新たな仕事に就く必要があると考えられています。「学歴よりスキル重視」、これからは、一生、新たなスキルを学び続けられる人材を育てる仕組みが重要になってきます。特に、日本人はデジタルスキルが低く、「リスキリング」(人材の再教育や再開発をする取り組み)(学び直し)が急務であると言われています。

宇宙

2021年、アマゾン創業者ジェフ・ベゾス氏、ZOZO創業者前澤友作氏ら民間人が宇宙旅行に成功し、「宇宙大航海時代」が幕を開け、宇宙開発は「軍事・科学開発」から「民間宇宙開発」へと変わりました。米スペース

Xを率いるイーロン・マスク氏（EVテスラ創業者）は「今後、打ち上げコストは1kgあたり10ドルまで下げられる」と発言しています。低コストでモノやヒトを宇宙へ運べる時代はもう目の前にきています。

激変する時代にあって、急激な人口減少社会を迎えた日本のGDPは、成長する国々に迫られながらも、なんとか世界3位を維持しています。しかし、幸福度は、2021年の国連が発表した世界幸福度ランキングでは56位と相変わらず低迷を続けています。歴史を振り返れば、急激な経済成長と共に、明治維新の頃の3,000万人の人口から、人口のピークを迎えた2004年の12,784万人までの136年間で、日本の人口は一挙に4倍に増えています。明治維新後の富国強兵策、第二次世界大戦後の経済成長政策、日本は、欧米に習い、過去の価値観を捨て、世界に例を見ない急激な経済成長と急激な人口増加を果たしたのです。しかし、その成長は、論語や武士道、神道など、日本人が古来より大切に育み培ってきた精神的基盤、心のよりどころを失う成長であったかもしれません。

日本の人口が、3,000万人だった江戸末期から明治維新の時代、日本を訪れた欧米人は、「日本人ほど幸福に見える国民はいない」と、日本独自の社会構造や日本人の価値観、生活習慣を高く評価しています。

20世紀の英国を代表する都市計画家のレイモンド・アンウィンは、20世紀初めの日本の都市や地域を都市計画の理想として描いています。アンウインは日本について、「春になると桜の木の下に人々がくり出して賑やかに過ごす」と説明し、理想の都市計画を日本の田園のイメージと重ね「もし同様のことができるとするならば」という趣旨で英国の都市計画を立案しています。20世紀初頭の日本の田園都市は世界の見識者から高い評価を得ていたのです。また、江戸時代の「まちづくり」が、現代のSDGsに通

じる考えの下に行われていたことは興味深い事実です。

これから訪れる未来、私たちは、時流を追いかけ「^{イノベーション}変革」だけに夢を託す訳にはいきません。「^{イノベーション}変革」と同時に、今ある大切なものを守ること、失った「大切なもの」を取り戻すことを怠ってはいけません。

「懐かしい未来」という言葉があります。それは、スウェーデンの言語学者ヘレナ・ノーバーク・ホッジが提唱する「未来への提言」です。彼女は、ラダック（インド北部ヒマラヤの麓）での生活体験での学びを綴った著書「幸せの経済学」の中で、「豊かさ」や「幸福」の手がかりは、遠い彼方にあるのではない、私たちの身近な「ローカルな場所」や「古くからの風景」や「文化」、あるいは「それらへの愛着」の中に含まれている。「成長」の果てにたどり着いた場所で発見したものは「もといた場所の大切さ」あるいは「もといた場所」そのものにあると語りかけています。

「豊かで美しい歴史と文教の城下町の再生」、そのビジョンは、未来への「^{イノベーション}変革」と共に「懐かしい未来」としての「失った大切なもの」の再生も、人口減少社会の「新たな価値観の創造」「重要な取り組み」として位置づけています。「歴史シンポジウム」の開催や「八朔の誓い」「明倫堂の教え」の創設、高鍋町の昔話の再生も、高鍋町の「懐かしい未来」創造の原点であり、今後の「まちづくり」を進める上で極めて重要な意識改革、シビックプライド（まちに対する町民の誇り）の醸成に必要な取り組みであると考えています。

「不易流行」

今、私たちに重要なことは、「不易」と「流行」、変化に流されない「洞察力」と、変化を取り入れていく「先見性」であると考えます。「まちづくり」

のビジョンを明確にし、過去の歴史を未来への^{みちしるべ}道標と捉えると共に、時代の流れを的確に捉え、未来をデザインし、変化への対応を急ぎながら、積極的なまちづくりに取り組んでいかねばなりません。

高鍋町の揺るぎないビジョン、それは「豊かで美しい歴史と文教の城下町」の再生です。「豊か」とは、幸せを実感できることであり、「美しい」とは、自然環境と人の心の美しさのことであり、「歴史」とは、積み重ねてきた高鍋町の改革の歴史であり、「文教」とは、人を育て優秀な人材を輩出することです。

改革の努力を積み重ねていく風土の中で、優れた人材が育ち、若者がチャレンジできて、働きがいのある雇用の場があり、高齢者が生き生きと健康に暮らせて、子育て・教育に最適な施設と福祉環境を備えた、誰もが住みたいと願う、豊かで美しい城下町の再生を目指すことが、高鍋町の未来に向けた揺るぎない「まちづくり」のビジョンです。

「農畜産業が豊かになってこそ、商工業は潤い、町は元気になる」という高鍋町を発展させる理念の下、本年も、「産業振興」「教育・福祉・子育て・高齢者支援」「防災・住環境整備」をまちづくりの柱に「10項目の達成すべき目標」を明確にし、戦略を立案し、高鍋町の活性化に取り組んでまいります。

さらに、その基本戦略の中に、変化する未来を予測し、国が提言する「ゼロカーボンシティ」「SDGs未来都市」「スマートシティ」「スマートウェルネスシティ」「みどりの食料システム戦略」という未来都市構想と国の戦略を加え「10項目の達成すべき目標」をさらに充実した内容の戦略として構築します。

ゼロカーボンシティ

「ゼロカーボンシティ」とは、2050年までにCO₂（二酸化炭素）の排出量を実質ゼロにすることを目指す旨（脱炭素化）を、首長自らが又は地方自治体として表明（ゼロカーボンシティ宣言）した地方自治体のことです。

SDGs 未来都市

「SDGs 未来都市」とは、内閣府地方創生推進室が、SDGsの達成に取り組んでいる都市を選定する制度のことです。既に2020年までに30都市が選定されていますが、今後、選定の可能性を模索していきたいと考えます。

スマートシティ

「スマートシティ」とは、ICT等の新技術を活用しつつ、マネジメント（計画、整備、管理・運営等）の高度化により、都市や地域の抱える諸課題の解決を行い、また新たな価値を創出し続ける、持続可能な都市や地域のことです。

スマートウェルネスシティ

「スマートウェルネスシティ」とは、住民が「健康で、生きがいを持ち、安心安全で豊かな生活を営むこと」をまちづくりの中核に位置付け、健康維持活動や社会参加活動の支援、「ウォーカブルシティ（歩きたくなる町）」の構築などにより、生涯にわたって健やかで幸せに暮らせる「健幸都市」のことです。

みどりの食料システム戦略

農業・食料生産において、革新的な技術や生産体系を順次開発し、社会実装することにより、2050年までの農林水産業のCO₂ゼロエミッション化、化学農薬や化学肥料の使用量の低減、有機農業の取組面積の拡大などの実現により持続可能な食料システムの構築を目指すものです。

10項目の達成すべき目標

1. 農畜産業支援

①農畜産品の高付加価値化

- (1)農畜産品のブランド化
- (2)農畜産品の6次産業化
- (3)農畜産品の販売促進（地元農産品と飲食店との連携）

②積極的な補助・支援

- (1)新規就農者への積極的支援
- (2)農業用ハウス補強支援
- (3)農業機械導入支援
- (4)災害に備えた収入保険への加入促進
- (5)栲瀬地区圃場整備事業の推進
- (6)国営かんがい排水事業一ツ瀬川地区更新事業の推進
- (7)家畜伝染病の防疫

③農業活性化支援

- (1)有機農業の推進
（高鍋・木城有機農業推進協議会の活動促進、高鍋・木城両町による有機JAS認証機関の設置）
（みどりの食料システム戦略、有機の里づくり）
（高鍋農業高校が行う有機農法授業の支援）
- (2)スマート農業の推進
（株）エイムネクスト社が町内に構築したLPWAネットワークの活用）
（スマート農業の実装実験への取り組み）
- (3)高鍋農業高校、県立農業大学校との連携
- (4)農業後継者、新規就農者の育成支援
- (5)地域おこし協力隊制度の積極的な活用

(6) J A児湯との連携推進

2. 商工業支援

①商工業・地場産業支援

- (1)中小零細商工業、商店街の支援
- (2)地場産業の支援
- (3)地場産品開発、販売促進支援
- (4)ふるさと納税制度の推進
(創意工夫による地場産品づくりの支援)

②商店街・「まちなか」の活性化

- (1)まちづくり会社(株)マチツクルとの連携
- (2)空き店舗対策の推進
- (3)町家・古民家再生の支援
(レンタルオフィス、シェアオフィス事業の推進)

③商工業の活性化

- (1)スマート商工業の推進
(デジタル化、LPWAネットワークを活用した商工業のスマート化の推進)
- (2)コワーキングスペース事業の支援、推進
- (3)餃子フェスなど商工業イベント開催の支援
- (4)後継者、起業家の育成支援
- (5)地域おこし協力隊制度の積極的な活用
- (6)高鍋商工会議所との連携推進

3. 企業誘致・雇用促進

①起業家養成・新産業創生

- (1)積極的な企業誘致活動の推進
- (2)誘致企業との意見交換
- (3)レンタルオフィスによる企業誘致の推進
- (4)企業の求める人材の育成（職能教育）

4. 観光促進

①観光資源を活かした観光推進

- (1)SNSを利用した観光情報発信
(ホームページの充実、ユーチューブ、フェイスブック、ラインの活用)
- (2)飲食業の振興支援
- (3)九州オルレ「宮崎・小丸川コース」の整備、広報支援

- (4)高鍋駅舎周辺及び蚊口海浜公園の整備推進
(駅舎、駅前ロータリー、海浜公園キャンプ場、民間遊休施設)
- (5)城下町の景観（高鍋城址公園、城堀、秋月墓地など）整備促進
- (6)町家・古民家再生による街並み再生の推進
- (7)観光協会との連携
- (8)高鍋城灯籠まつりの支援

②観光資源開発

- (1)NHK大河ドラマ推進協議会の設立
(米沢市の上杉鷹山大河ドラマ推進協議会との連携)
- (2)持田古墳群、高鍋大師花守山の整備推進
- (3)観光イベントの支援
- (4)観光ボランティアガイドの育成支援

5. 高齢者、子育て、福祉の充実

①高鍋町社会福祉協議会との連携推進

- (1)総合相談支援センター「架け橋」の充実支援
- (2)こゆ成年後見支援センターの充実支援
- (3)子どもの居場所づくりの推進

②福祉・医療の充実支援

- (1)新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の推進
- (2)スマートウェルネスシティ（健幸都市）づくりの推進
- (3)健康アンバサダーの育成推進
- (4)高校生までの医療費無償化の推進
- (5)高校生までのインフルエンザ予防接種無償化の推進
- (6)65歳以上のインフルエンザ予防接種の無償化の推進
- (7)福祉ボランティア活動の推進

③子育て支援

- (1)教育・保育施設の環境整備の推進
- (2)安心して子育てできる切れ目のない支援体制の充実
- (3)放課後児童クラブの支援
- (4)子どもの貧困対策の推進

④高齢者支援

- (1)LPWAネットワークを活用した高齢者見守りの推進
- (2)高齢者の生きがい、活動の場の確保（生き生きとした暮らしの支援）
- (3)高齢者クラブの支援
- (4)シルバー人材センターの支援
- (5)高齢者の居場所づくりの推進

⑤障がい者支援

- (1)たか鍋まごころサポーターの養成
- (2)障がい者支援サークルの支援
- (3)障がい者が生き活きと暮らせるための支援

6. 教育支援・文教の町の再生

①「教育の充実」支援

- (1)外国語、小学校体育等の工夫改善
- (2)特別支援教育の充実推進
- (3)教育のデジタル化の推進
- (4)学校施設環境改善の推進
- (5)キャリア教育、ふるさと教育の推進
- (6)スクールソーシャルワーカーによる支援

②「文教の町」再生支援

- (1)ふるさと教育「明倫堂の教え」の策定、導入、推進
- (2)児湯学友団コンソーシアム協議会の推進
- (3)町内県立高校の支援
- (4)高鍋高校創立100周年事業の支援

7. 社会教育の推進

①社会教育施設の整備充実

- (1)柿原政一郎記念高鍋図書館リノベーションの推進
- (2)まちなか学習館の設置推進
- (3)スポーツ施設の整備・改修
- (4)石井十次生家の整備
- (5)指定管理者制度の導入
- (6)施設のネーミングライツの推進
- (7)官民連携による老朽化施設の整備促進
- (8)高鍋町歴史総合資料館の改革充実

②地域、スポーツ、文化活動支援

- (1)公民館活動の支援
- (2)スポーツ・文化活動の支援
- (3)美術館の充実・活動支援

③歴史を活かした「まちづくり」の推進

- (1)歴史シンポジウムの開催
- (2)嚶鳴フォーラムへの参加
- (3)全国藩校サミットへの参加

- (4)高鍋の昔話の再生
- (5)高鍋神楽の無形民俗文化財国指定の推進
- (6)伝統芸能の承継・育成支援
- (7)旧鈴木馬左也邸の再生の推進
- (8)石井十次顕彰会の活動支援
- (9)古墳を守る会の活動支援

8. 防災・環境整備・美しい高鍋づくり

①防災の推進

- (1)災害危険箇所の防災対策の推進
- (2)宮越樋管の揚水機場完成に伴う周辺土地利用条例の整備
- (3)町内の河川水路の浚渫推進
- (4)防災訓練の実施
- (5)LPWAネットワークを活用した防災管理の推進
- (6)消防団活動の支援

②住環境整備の推進

- (1)竹鳩橋架け替えの推進
(竹鳩橋等整備促進期成同盟会の活動再開)
(早期事業着手に向けた活動の推進)
- (2)ゼロカーボンシティ宣言
(2050年までにカーボンニュートラルを目指す)
- (3)自治体新電力の設立準備
(ゼロカーボンシティの推進、町民の生活支援、雇用の創出、自治体支援)
- (4)SDGsの推進 (SDGs未来都市を目指す)
- (5)デジタル化、スマートシティの推進
(LPWAネットワークを活用したスマートタウンの推進)
- (6)道路等未整備インフラの整備
- (7)空き家・空き地対策の推進
- (8)持続可能な公共交通体系の再構築

③美しい高鍋の景観づくりの推進

- (1)景観条例・景観審議会等の充実及び施策の展開
- (2)街路樹、美しい街並み、景観美化の推進
- (3)公園の美化整備
- (4)コンパクトで美しく機能性に優れた「まちづくり」の推進
- (5)町木「タカナベカイドウ」の植樹育成支援

9. 人口増加・移住・定住支援

①移住・定住の推進

- (1)「定住のススメ」の作成
- (2)高鍋町の魅力情報発信の推進
- (3)空き家バンクの利活用推進
- (4)地域おこし協力隊制度の活用と人材確保の推進
- (5)移住定住支援策の拡充

10. 役場の活性化の推進

①町民の声を町政に活かすための取り組み

- (1)ホームページ、広報たかなべ等、情報発信の充実
- (2)町民の意見を聞く機会の充実
- (3)業務のデジタル化（スマート行政）の推進

②職員教育の推進

- (1)綱紀粛正の徹底
- (2)人材育成、職員研修の推進
- (3)年度方針、各課の年度目標の設定と共有化の推進
- (4)プロジェクトチーム（職員自主研究グループ）活動の推進
（課を超えた連携のチームで自ら立案したテーマに取り組む）
- (5)笑顔、挨拶、掃除で職場文化づくりの推進
- (6)町長表彰制度の充実

以上、短期、中期、長期での達成すべき目標を明確にし、やるべきことを迅速確実に推し進めてまいります。

「神よ、変えてはならないものを受け入れる冷静さと
変えるべきものを変えていく勇気と、
変えることのできるものと、できないものを識別する英知を、
われらに与えたまえ」

これは、アメリカの神学者ラインハルト・ニーバーの言葉です。1980年前後、アメリカでレーガン改革が始まろうとする頃、日本が好景気でバブルの絶頂期を迎え、「失われた30年」に至る前、苦境にあったアメリカの経営者の会議ではよくこの言葉の書面が配られました。そこには改革を成し遂げるために最も必要な言葉が記してありました。

「冷静さ」と「勇気」と「英知」

明確な目標設定と、「冷静」に「勇気」と「英知」を以て、的確に施策を
実践することにより、高鍋町は、必ず、誰もが住みたいと願う、輝きに満ち
た、幸せの実感できる町になると信じます。町民の皆様、議員の皆様、職員
の皆様の教えを請い、共に力を合わせ「豊かで美しい歴史と文教の城下町の
再生」に向かって歩を進めてまいりたいと考えます。

なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願いを申し上げ、私の施政へ
の所信といたします。